

## 花粉症対策について 低花粉性のスギの植樹

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

「石ばしる垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも」(志貴皇子「万葉集」)  
寒い冬が過ぎ、春の訪れを喜ぶ歌です。昔から春の訪れは特別なものなのでしょう。

しかし、現代に生きる私たちにとっては花粉症の季節でもあります。花粉症に患う一人として今回は、花粉症について解説します。

### 《花粉症の現状》

花粉症は国内で約3,000万人が罹患する日本で最も多いアレルギー疾患です。その有病率は1998年19.6%、2008年29.8%、2019年42.5%とほぼ10年ごとに10%づつ増加しています。花粉症による生産性の低下は、1日あたり2,215億円の経済損失を招くとの試算もあります。

花粉症の原因には、スギ、ヒノキ、イネ、ブタクサなどがあり、最も多いのはスギ花粉症で、3人に1人がスギ花粉症と推定されています。

スギは日本列島におよそ450万HAと広く分布しています。これは、日本では戦後、高度経

済成長期の住宅需要増などを背景に、成長が速く加工しやすいスギの植林が進んだことが背景となっています。

### 《政府による花粉症対策》

政府はスギ花粉症対策として、低花粉性のスギの植樹に力を入れています。これは、花粉症の発症率を低減するための重要な施策の一つです。現在、特定の地域で低花粉性のスギを試験的に植樹し、その効果を検証しています。すでに、通常のスギと比較して花粉の飛散量が著しく少ないことが確認されています。

目標は、全国的に低花粉性のスギを普及させ、花粉症の発症率を大幅に削減することです。

具体的には、令和15年度(2033年度)までに、花粉の発生源となるスギ人工林を約2割減少させることを目標として、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化を推進しています。

### 《花粉症対策の課題》

まず、低花粉性のスギは通常のスギと比べて成長が遅いため、短期間での効果が期待できないことです。また、植樹には多額の費用がかかるため、予算の確保も必要です。さらに、地域ご

との花粉飛散量や気候条件に合わせた適切な植樹計画が求められます。これらの課題を克服するためには、政府と地域社会との協力が不可欠です。

### 《林業の現状と課題》

林業従事者は厳しい労働環境に晒されており、特に高齢化と人手不足が深刻化しています。これに対し、政府は労働環境の改善と技術の導入などを推進しています。例えば、最新機器の導入や、作業効率を向上させるための研修プログラム等を提供し、持続可能な林業の発展を目指しています。

### 《花粉症対策のこれから》

花粉症対策には、官民一丸となって取り組み、国民の健康と生活の質を向上をさせることが重要です。これらの対策の進展により、将来的には花粉症の影響を大幅に減少させることが期待されています。花粉症を患う皆様、春を喜んで迎えらるる未来のために尽力します。

前衆議院議員



不屈の  
三河武士  
櫻井 白

《やまとと・さこん》  
愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙(比例代表)に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙(東海ブロック比例代表)に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。



# 世界三大花粉症について

「世界三大花粉症」と呼ばれる3つの花粉症は、ヨーロッパを中心に見られる「イネ科花粉症」、アメリカが中心の「ブタクサ花粉症」、そして日本の「スギ花粉症」です。もちろん、これら3種類以外にも花粉症の原因となる植物は世界各地で確認されており、それらの総数は現段階で60種類程度。

## スギ花粉症

地域：日本



## イネ花粉症

地域：主にヨーロッパ



## ブタクサ花粉症

地域：アメリカ全域



### <主な花粉の飛散する時期>

スギやヒノキは春が中心、秋にも少量の花粉が飛散することがあります。  
イネ科の花粉は種類が多いため春から初秋までの長い期間飛散します。  
ブタクサやヨモギなどのキク科とカナムグラの花粉は夏の終わりから秋にかけて飛散しています。

### <メガネやマスクの効果>

マスクをしないうちに比べて、通常のマスクでも花粉をおよそ70%削減し、花粉症用のマスクではおよそ84%の花粉を減少させる効果。



	鼻の中の花粉数	結膜の上の花粉数
マスクなし メガネなし	1,848個	791個
通常のマスク 通常のメガネ	537個	460個
花粉症用マスク 花粉症用メガネ	304個	280個

日本医科大学耳鼻咽喉科 大久保 公樹

メガネを使用しない場合に比べて眼に入る花粉量は通常の眼鏡でおよそ40%減少し、防御カバーのついた花粉症用のメガネではおよそ65%も減少します。



花粉の飛散している季節にコンタクトレンズを使用すると、コンタクトレンズによる刺激が花粉によるアレルギー性結膜炎の症状を悪化させる可能性があるため、メガネに替えた方が良く考えられています。